



人がめどか 神さんめどか

梅谷四郎兵衛は、生来、気の短い方でした。明治16年、お屋敷でひのきしんをしていたところ、自分の陰口を聞き、激しい憤りから、深夜、ひそかに荷物を取りまとめて、大阪へもどろうとしました。足音をしのばせて、中南の門屋を出ようとした時、教祖の咳払いが聞こえ、「あ、教祖が。」と思ったとたんに足は止まり、腹立ちも消え去ったそうです。翌朝、教祖がお出ましになり、「四郎兵衛さん、人がめどか、神がめどか、神さんめどかで。」と仰せ下さいました。

私達は世間の噂から不安になったり、家族の言葉に動揺したり、仲間の態度に憤りを覚えることがあります。そのときにこそ、「あ、教祖が。」と冷静に気づける信仰心を持たせて頂きました。決して一時の感情で怒りをぶついたり、陰口で憂さ晴らしをしたりしないようにしましょう。

ひとがなにごといはうとも
かみがみているきをしずめ

(みかくらうた四下り目)

本島大教会布教部(真)

※「めど」めあて、目指すところの意



天理教本島大教会

教祖140年祭